

平成20年度第1回行政評価調査会議について

1 日 時：平成20年7月30日（水）午後2時～午後4時

2 場 所：京都ロイヤルホテル&スパ 「祥雲の間」

3 出席者：

氏名	役職
◎新川 達郎	同志社大学大学院総合政策科学研究科教授（政策）
河村 律子	立命館大学国際関係学部准教授（政策）
○秋月 謙吾	京都大学大学院公共政策連携研究部教授（事務事業）
稲継 裕昭	早稲田大学大学院公共経営研究科教授（事務事業）
嘉門 雅史	京都大学大学院地球環境学堂長（公共事業）
伊多波良雄	同志社大学経済学部教授（公共事業）

◎：議長， ○：副議長

4 政策評価制度に関する意見

（1）政策評価の回数について

素早く反応できる行政とするために、一年に一度の政策評価でよいのか。

（2）市民生活実感調査について

① 市民生活実感調査について、同じ人に繰り返しアンケートに答えてもらうことによって、結果を反映していく工夫も必要ではないか。

② モニターを募り、インターネット調査を導入すると回収率が上がり、判断する際の情報量が違うのではないか。

（3）政策評価制度の役割、目的について

① 政策評価をソーシャルキャピタル（社会関係資本）形成のための仕組み作りとしてとらえ、市民と行政相互の応答性を考えられるような使い方ができないか。

② 政策評価制度の目的の1つである「市政の現状や京都のまちづくりの進み具合をご理解いただく情報の一つにしたい」という点については、ホームページ等での見やすくする工夫を行ってきているが、まだまだ不足しているのではないか。